



下村チーフアドバイザー帰任

2014年2月末日の任期満了により下村専門家が帰任されました。プロジェクト開始から1年6ヶ月間、長期休暇を取ることなく全力投球の毎日でした。今回の帰任は3月末に、さいたま市水道局をご退職されるためであり、来年度5月ごろを目安に再赴任される予定です。

1年6ヶ月間の活動詳細は別号において振り返ってもらいますので、今号はこれまでの概要と帰任間近のカウンターパートの様子を中心に伝えたいと思います。

プロジェクト開始初期は、カウンターパートとの認識が異なり、共通の理解を得るために時間と労力を費やしました。他の技術協力プロジェ



時には下村チーフアドバイザー自らOJT活動を実施



工事管理ワークショップ開催

2014年2月24日、カムアン県タケークにて工事管理ワークショップを開催しました。本プロジェクトのワークショップは四半期に一度プロジェクトスタッフ全員(約60名)が集う会合で、今回で第7回目になります。現在タケークでは、日本の無償資金協力で浄水場建設・配管敷設工事が行われています。日水コン現地駐在の溝下氏に工事管理の基調講演を行ってもらい、その後は恒例のPCM問題分析(続きは3ページ)



水道事業経営管理(財政)短期専門家派遣

2013年度第2陣最後の短期専門家として、徳永隆短期専門家が2月5日から3月5日まで本プロジェクトに派遣されました。本プロジェクトの中心課題となる中期・長期事業計画策定にとって財政はとても重要な分野です。しかしながら、これまで派遣元水道事業体との懸命な調整にもかかわらず財政分野の専門家は派遣されていませんでした。今回、ベトナムなどで幅広く支援を行っている横浜市(続きは2ページ)

ラオス水道公社事業管理能力向上プロジェクト

ラオス国では1999年に出された首相令により、2020年までに都市人口の8割に対して24時間の安全で安定的な都市給水を行うことを目標としています。JICAをはじめ各ドナー機関はこれまでに様々な支援を行っていますが、2010年の都市における水道普及率は55%にとどまっています。国が掲げる目標値を達成するためには、水道施設のさらなる拡張・更新、そのための事業運営の効率化を通じた投資資金の確保が必要です。事業運営効率化に向けては、これまでに短期的な計画策定とモニタリングの枠組みが設定されています。しかし、自力では短期計画の策定や更新ができない水道公社が多く実効性に乏しい枠組みとなっています。また、水道施設拡張・更新に必要な、中長期的な水需要予測や財政収支見通しに基づく事業計画の策定とモニタリングは管轄省庁である公共事業運輸省による制度化すらされておらず、現にほとんどの水道公社は中長期事業計画を有していません。

そのため、本プロジェクトでは、公共事業運輸省を主なカウンターパートとし、首都ビエンチャン、ルアンパバーン県、カムアン県の水道公社をパイロット水道公社に選定し、①事業計画策定に必要なデータ管理強化、②短期・中期・長期事業計画策定/実施能力強化、③事業計画モニタリング強化、④水道事業計画技術ガイドライン整備、⑤事業計画策定の全国普及へのメカニズム構築を行い、事業管理能力強化の仕組み整備を行っています。

パイロット水道公社 (3公社)



ルアンパバーン県水道公社 (北部)

首都ビエンチャン水道公社 (中央部)

カムアン県水道公社 (南部)

下村チーフアドバイザー帰任(続き)

クトでも散見されるように、プロジェクト初期は多くのカウンターパート職員がJICA 専門家を「業務を代行してくれるコンサルタント」と認識していました。会議の度に「専門家が要求するデータを提出し終えた」と満足げに報告するカウンターパートの姿が多く見られました。

その流れを変えたのが、2013年5月にパイロット各県の公共事業運輸局(DPWT)も巻き込んで実施した2020年の計画給水区域検討会議です。これにより、各県水道公社の行うべき活動が明確になり、カウンターパートによる主体的な活動に結びついていきました。

他には、水道規制室(WASRO)との毎週の勉強会による業務指標(PI: Performance Indicator)計算式の確定支援です。PIを含む規制ガイドラインが実践されていないところ、PIの計算式を確定することによりWASROの活動が明確になり主体的な動きにつながりました。

また、同時期にお客様アンケートも行いました。これまで他ドナー支援によるアンケートの経験があるため、今回もJICAによる技術支援に加えて資金支援も行ってもらえると考えていたようです。しかしながら、(専門家質問)アンケートは誰のために行う?(水道公社回答)水道公社、(質問)では誰が資金を準備する?(回答)水道公社、という具合にアンケート結果を水道公社の改善に寄与することを理解することによって、アンケートに係る人員及び資金(主に残業代と交通費)を自ら準備し、主体的な活動に結びつきました。

さらに、短期専門家団が各県水道公社に数週間張り付き、データ管理や各分野長期計画策定支援をOJT方式で丁寧に行うことにより、各カウンターパートが何をすべきかが明確になり、主体的な活動に結びついていきました。

2013年12月のJCC会議では、各カウンターパート機関から、上記活動の具体的な成果が誇らしげに報告され、2014年の活動がさらに飛躍することを目指すことで会議が締めくくられました。

このようなカウンターパートからの信頼と満足が示された中で、下村専門家の帰任が迫ってきました。ラオスにはラオス人にとって最も重要な儀式「バーシー」があります。誕生、結婚、旅立ちといった節目節目に人々が幸せになることを祈り儀式が行われます。下村専門家帰任直前には、パイロット3県水道公社がそれぞれ下村専門家とご家族のためにバーシーの儀式を行いました。バーシーの儀式では、願い事を伝えながら相手の糸の紐を手首に結び付けます。参加者は一同に下村専門家が早期にラオスに戻ってくることを願いながら紐を結びつけていました。

工事管理ワークショップ開催(続き)

グループワークです。

特定のテーマ(今回は工事管理)にもかかわらず、プロジェクトスタッフ全員が参加する目的は、問題分析能力の向上のみならず、専門外の一般知識、課題を知ることにより、水道事業に携わるものとして広い視野を持ってもらおうというものです。また、他水道公社間との交流は職員同士を結びつけ、プロジェクトを離れたところでも結びつきが広がっていきます。

問題分析では、時間の制約もあり一つの問題を深く掘り下げて検討するところまでは至りませんが、いくつかある問題の原因を、①材質の問題、②作業標準がないなど技術的な問題、③それと関連して人材育成の問題など、分野ごとに検討するグループが多く見られました。問題に対する結果としては、漏水が多発するなど直接的な結果から、さらに掘り下げて顧客の不満につながるというグループまで出てきました。

これらは、第6回水運用&NRW管理ワークショップや第5回Customer relationsワークショップで討議したことがそれぞれ結びついてきたものと思われまます。次回は2014年度第1四半期に水質管理ワークショップを実施する予定です。

水道事業経営管理(財政)短期専門家派遣(続き)

水道局から徳永専門家を派遣していただきました。

カウンターパートにとって長らく待ち望んでいた財政分野の専門家です。1ヶ月という短い期間でしたが、3水道公社を2回ずつ巡回するというハードスケジュールに耐えていただき、3水道公社統一の「収益的収支表」、「資本的収支表」、「財源表」、「借入金残金状況表」などを財政担当のカウンターパートとともに作成していただきました。

これらを用いて、過去数年間の実績と長期計画から算出される各事業概算を検討することにより、今後どれくらい借入金を含む投資資金が必要なのか、維持管理費などを水道料金で賄うには料金設定は適切なのかなど、ラオス政府が水道公社に企業化(独立採算)を求めているにもかかわらず実践されていない部分に明るい見通しがつくものと思われまます。



DPWTも参加しての計画給水区域検討会議の様子



WASROとの勉強会の様子



ルアンパバーン県水道公社でのバーシー儀式の様子



工事管理ワークショップ・グループワークの様子

*** 皆様のご意見・ご感想をお待ちしております ***

ラオス水道公社事業管理能力向上プロジェクト事務所

Eメール/電話 : jicapimawasa@gmail.com / (+856-21) 260493

プロジェクトホームページ : <http://www.jica.go.jp/project/laos/012/index.html>